

日本学術会議
東日本大震災に係る学術調査検討委員会拡大役員会（２３期・第３回）
議事要旨

日 時：平成２８年６月２０日（月） １０：００～１２：００

場 所：日本学術会議５階 ５－Ａ（１）会議室

出席者：岩澤委員長、目黒幹事、山川幹事、佐藤委員、廣瀬委員、山下委員、和田委員（７名）

欠席者：福田副委員長（１名）

参考人：沼田宗純氏（東京大学生産技術研究所講師）

事務局：石井参事官、松宮参事官補佐、鈴木参事官付審議専門職付、大庭参事官付審議専門職付

配布資料：資料１ 前回議事要旨（案）
資料２－１ 東日本大震災に関する学術調査・研究活動アンケート（依頼文）
資料２－２ 東日本大震災に関する学術調査・研究活動アンケート
（回答ページ概要）
資料２－３ 東日本大震災に関する学術調査・研究活動アンケート
（お問い合わせ画面）
資料２－４ 東日本大震災に関する学術調査・研究活動アンケート
（回答画面）
資料２－５ 東日本大震災に関する学術調査・研究活動アンケート
（回答者数の推移）
資料２－６ 東日本大震災に関する学術調査・研究活動アンケート
（送付についての報告）
参考１ 出席者名簿
参考２ 委員名簿

議事：

１）前回議事要旨案の確認

資料１に基づいて、前回議事録要旨（案）が確認され、委員により了承された。

２）東日本大震災に関する学術調査・研究活動アンケートの実施結果の確認

初めに、佐藤委員より、資料２－１～２－６に基づき東日本大震災に関する学術調査・研究活動アンケート（以下：アンケート）の実施結果について、回答者数や問い合わせの状況などの概要説明があった。

次に、参考人の沼田宗純氏より、アンケートの各質問項目の回答結果に関する報告があった。

リマインドの効果が大きく見られたことから、以下のことが決められた。

■回答締切を延長し、再度21期～23期の会員・連携会員に配信する。

■配信の文案については、佐藤委員が作成する。

■6月末を回答締切とする。

3) 東日本大震災に関する学術調査・研究活動アンケートの実施結果とりまとめの方針と進め方

まず、議事2)における説明・報告を受け、意見交換が行われた。主なやりとりは、以下の通り。

- ・以前のものは学協会（協力学術研究団体）経由だったが、今回はやらないのか。学協会（2,000以上ある）に流した方が効果的なのではないか。
- ・途中でやり方を変えることにもなってしまうため、今回は会員と連携会員のみで良いのではないか。
- ・やり方にこだわるのか、数を集めたいのか、どちらなのか。せっかく2,000以上のネットワークを持っているのだから、それらに流せば数は確実に集められるだろう。
- ・学協会にも流すのであれば、6月末を締切とするのは厳しいかもしれない。
- ・事務局としては、学協会に送るのにテクニカルな問題ないか。
- ・代表のメールアドレスは分かるが、学協会からの問い合わせは増えるだろう。
- ・会員・連携会員がきちんとまわしてくれているのであれば学協会に流す必要はないと思うが、そこが分からないため、判断難しい。
- ・回答者が分からないため、「当然あの人は回答しているだろう」といったケースも考えられる。
- ・一度6月末までに再度会員・連携会員に配信、その後、補足という意味で別途学協会に送ってはどうか。
- ・会員・連携会員の方と学協会の方とを区別して集計するというやり方も考えられる。
- ・学協会経由ですでに回答した人にまわってしまうこともありえる。そこに関しても配信文の中に何か一言コメントを入れると良いだろう。

以上のやりとりをふまえ、以下の事項が決定された。

■7月1日に、学協会（協力学術研究団体）への配信を行う。

■会員・連携会員へのものと併せて、配信の文案は佐藤委員が作成する。

■学協会の回答については、2週間後（7月15日）を締切とする。

■会員・連携会員からの回答と学協会からの回答は区別して集計する。

次に、今後のとりまとめの進め方についての確認がなされた。決定事項としては、以下の通り。

【作業】

①データクリーニング

- ・ 回答の重複チェック
- ・ 不完全な回答に関する判断
- ・ 記入ミスチェック（金額の数字など）
- ・ コード化（回答項目を数字のみにする）
- ・ 自由回答のコード化

②基礎（単純）集計

③詳細集計

- ・ 分野クロスなど

【提言方針】

回答の統計的分析・可視化に加えて社会科学的な分析を行う

【分析方針】

- ・ 統計データの中身（どういう分野の専門家がどういう対象で研究したか）
- ・ 災害の時間経過の中での活動の変化、この時の予算はどのくらいか、どこから支出されているか
- ・ どのくらいの人数の研究者が関与していたか
- ・ 連携はどの組織が中心になっていたか、どのような分野が中心だったか

【スケジュール】

参考人の沼田先生が、7月中旬を目途に作業の①・②を行う。8月末までにクロス分析と自由回答の分析を仕上げ、各委員で確認作業を行い、A4一枚ほどでコメントを集める。

4）東日本大震災に関する学術調査・研究活動アンケートの実施結果とりまとめの分担について

議事3）をふまえ、資料2－4の問3における専門分野に基づき自由回答の分析の分担がなされた。各担当は、以下の通り。

- 1・2 → 岡田委員
- 3・4 → 廣瀬委員
- 5・6 → 山川幹事
- 7・8 → 佐藤委員
- 9・10 → 山川幹事
- 11・12 → 福田副委員長
- 13・14 → 渡部委員
- 15 → 山本委員
- 16 → 山下委員・向井委員
- 17～19 → 山下委員
- 20～22 → 矢川委員
- 23 → 大久保委員

24 →目黒幹事
25 →岩澤委員長
26 →矢川委員
27・28→和田
29 →和田・目黒
30 →和田

5) その他

今後のスケジュール等を鑑み、以下のことが決定された。

- 次回の会議も、拡大役員会として開催する。参加対象は、今回（第3回）同様、役員＋ワーキンググループ＋参考人（沼田氏）。9月1日（木）～9日（金）の間で、事務局が日程調整を行う。
- 今後、参考人としてご参加いただいた沼田宗純氏を特任連携会員とするための準備を進める。必要な手続きについては、事務局から岩澤委員長に伝える。